

暗唱のすすめ 近代文学編②

蜘蛛の糸 くも いと

芥川 龍之介 あくたがわり ゆうのすけ

あるひ あるひ

おしゃかさま おしゃかさま

はすいけ はすいけ

ひと ひと

或日の事でございます。御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶ

おある おある

ッ

ッ

いけ なか

さ

イ

はす

らぶら御歩きになつていらつしやいました。池の中に咲いてゐる蓮の

はな

たま

ヨ

ッしろ

なか

こんじき

ずい

花は、みんな玉のやうにまつ白で、そのまん中にある金色の蕊からは、

なん

イエ

い におい

たえま

あふ

お

ごくらく

何とも云へない好い匂が、絶間なくあたりへ溢れて居ります。極楽は

ちようどあせ

しょう

丁度朝なのでございませう。

杜子春 とししゆん

芥川 龍之介 あくたがわり ゆうのすけ

あるはる あるはる

ひぐれ

或春の日暮です。

とう

みやごらくよう

にし もん

した

そら

あお

イ

ひとり

わかもの

唐の都洛陽の西の門の下に、ぼんやり空を仰いでゐる、一人の若者

わかもの

な

とししゆん

ッ

もと

かねもち

むすこ

がありました。若者は名は杜子春といつて、元は金持の息子でしたが、

いま いま

さいさん さいさん

つかイツク

ひ くら

こま

くらい

あわれ

みぶん

ッ

今は財産を費ひ尽して、その日の暮しにも困る位、憐な身分になつて

イ

ゐるのです。